

照願寺蔵 本願寺親鸞聖人傳繪 総索引稿

高 金

橋 子

富 美  
子 彰  
編

## 凡 例

一、本総索引は、千葉県照願寺蔵『本願寺親鸞聖人傳繪』（重文）に用いられている総ての語を、複製本（大法輪閣発行、昭和五十四年七月）に基づいて収めたものである。

尚、本書の複製本は、昭和六年十二月、発行兼印刷者高澤敬信、頒布所千葉県大原町真宗照願寺からも出版されているが、今回は、右の大法輪閣発行本（翻字本文も付されている）に依った。

一、照願寺蔵『本願寺親鸞聖人傳繪』は、上巻・下巻、各一軸の構成である。

### 一、見出し語について

1、見出し語は、平仮名で歴史的仮名遣（字音語は字音仮名遣）を原則に統一した。

a、和語には、私に濁点を付した。

b、漢字の訓み方は、次掲書の翻字文と校異（小林芳規・松本光隆担当）を参照した。

善慶寺蔵 古刊本『本願寺聖人親鸞傳繪』（御傳鈔）の研究（昭和五十八年九月、善慶寺発行）

2、排列は、最終音節までの五十音順とした。

3、参照項目を設け、複合語の低位要素からも検索できるようにした。

4、見出し語は、単語を原則とした。

a、動作性の漢語にサ変動詞「す」の付いた形は、一語として扱った。

b、状態性の漢語に「なり」の付いた形は、二語として、漢語に助動詞「なり」の付いた形として扱った。但し、和語を語幹とする所謂形容動詞は、一語として認めた。

c、書中で引用されている経文等は、単語単位で掲出ししないで、分割せずそのままの形で掲出した。

### 一、用例について

1、用例は、底本の文字を現行の表記様式に直して掲出した。底本の誤脱と判断されるもの等も、一切手を加えなかった。

2、用例の引用は、以下の通りとした。

- a、自立語・付属語とも、原則として当該語のみを示した。
  - b、但し、活用語は、その用法に応じて下接語（又は語句）も示した。
- 3、用例の所在は、以下の通りとした。
- a、漢数字は、底本の軸（上巻Ⅱ一軸・二軸、下巻Ⅲ三軸・四軸）である。
  - b、算用数字は、当該語の上巻・下巻での通し行数である。（例、四70は、四軸の下巻の通し行数70行目）
  - c、ちなみに、各軸の行数は、次の通りである。  
上巻（一軸Ⅱ1〜85行 二軸Ⅱ86〜239行） 下巻（三軸Ⅲ1〜56行 四軸Ⅲ57〜194行）
- 4、用例の排列基準の主なもの、以下の通りとした。
- a、無活用語は、出現順に排列した。
  - b、活用語は、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の順に排列した。
  - c、同一単語で用例の表記が全く同じ場合には、初出例の下にまとめて示した。

附記 本総索引の掲載について、照願寺御当局の御高配を賜った。又、本稿の原稿整備に山本秀人氏の助力を得た。記して御礼申し上げる次第である。

あ

あたる (當)

當て

四 174

あはす (合)

あはせ

二 219

屋根尊

天兒屋根尊

一 1

あうぎ (奥義)

奥義

二 104

あつかる (預) ↓まうしあづ

かる

あひ (相) (接頭語)

ぐす・あひまつ

↓あひ

あまつさへ (副詞)

剩

三 48 四 186

あがむ (崇)

崇たまふ

一 75

あつまる (集)

あつまれる

一 45

あひぐす (相具)

相具し奉て

一 13

あまねく (遍)

あまねく

二 114 二 237

あきらかなり (明)

明なり

一 18

あと (跡)

跡

三 28

あひだ (間) ↓かん

あひた

二 159

あまり (餘)

餘

二 86

あきらかなり

あきらかに

二 235

あと

あと

四 83

あひまつ (相待)

相待といへとも

三 41

あみだぶつ (阿弥陀仏)

あまり

二 228

明なるをや

あくじ (悪時) ↓ごぢよくあ

くじ

四 108

穴賢々々

穴賢々々

四 130

あふ (会・合)

あふ (連体法)

一 57 四 165

南无阿弥陀佛

南无阿弥陀佛

二 96

あくせかい (悪世界)

悪世界

一 82

あながちに (強)

あながちに

四 128

あふぐ (仰)

あふぎ

二 120 四 137

あやまる (錯)

錯て

一 73

あくまで (副詞)

あくまで

一 28

あなん (阿難)

阿難

四 112

あふく (仰)

あふくへし

一 74

あゆみ (歩)

あゆみ

四 180

あそぶ (遊)

あそひし

四 67

あに (豈)

豈

二 130

あふる (連体法)

あふる (溢)

二 133

あゆみよる (歩寄)

あゆみよりつゝ

四 63

あた (怨)

怨

三 11 三 38

あはく (阿伯)

阿伯従三位範綱卿

一 11

あまつこやねのみこと (天兒)

あまつこやねのみこと

三 29

あらたむ (改)

あらたむ

三 53 四 171

改	二101三13	あるへからす	二170				
あらはす(著)		あること	二200	い		衣冠	四139
あらはさむか	一59	あれは	一6四122	い(意)		以下	
あらはさす	四156	ありくに(有国)		意	二147	いげ(以下)	
あらはし	二163	有国	一5	いうせい(幽栖)		いこつ(遺骨)	四163四172
著つゝ	四146	ありのままに(有儘)		幽栖	三27	遺骨	
あり(有)		有のまゝに	三49	いかでか(如何)		いささか(聊)	
あらず	二130二191四70	ありのり(有範)		いかてか	一56二173	聊	四153
四127四131四182		有範	一6	いかり(忿)		いささかも(聊)	四69
あらめ	二177	あるいは(或)		忿	三11	聊も	二169
非	三14三14四115四115	或	一4	いきたゆ(息絶)		いしゆ(意趣)	
あらて	四70	或は	二162二163三13	いきたえをはりぬ	四159	意趣	二140
ありなから	一40	あるとき(或時)		いきどほり(憤)		いす(違)	
ありて	二160二199三37三49	或時	二86二87二127四92	いぎやう(易行)	三3	違義	三11
ありき	二168	あるひ(或日)		易行	一23	いたじきやま(板敷山)	
あり	一42一68二123二	或日	四58	易行		板敷山	三40
148二215三44四73四91四		あんず(案)		いぎやうだう(易行道)		いたす(致)	
97		案する	一48三43	易行道	二128	いたすへし	二142
ありと	二124二140三23四107	あんないす(案内)		いくせんまん(幾千万)		いたすへき	四71
有	四187四188	案内したまふ	四63	幾千万	四177	いたす(連体法)	二158
あるに	二132			いくわん(衣冠)		いたたく(頂)	

いたゞき	一七	生)	いづれも	四九六	いはれなし	二一七三
いたみ(痛)	四一八七	一切群生	いであふ(出會)	三三六	いふ(言)	二二
痛		いちし(二師)	出會たまひけり	四六五	いひて	二一〇八
いたる(至)	二一七七	一師	出會たてまつりて	四六五	云(連用形)	二二〇七
いたりては	四一九一	いちしう(二宗)	いと(副詞)	四六五	いひつへし	二二三五
至(終止形)		一宗	いと	四八二	云て	四七八
いち(市)	二一二二	いちしやう(二生)	いとま(違)	三二七	いひ(中止法)	四一〇四
市		一生	違	四一八二	いふへからす	四一四八
いぢうす(移住)	四八四	いちしむ(一心)	いなだかう(稲田郷)	三二七	云(終止形)	四一八四
移住したまひき		一心	稲田郷	三二七	いふ(連体法)	四一八四
いちかうせんじゆ(一向専修)	三三四一五	いちにん(一人)	いにしへ(往)	二二二	云(連体法)	四一八四
一向専修		一人	いにしへ	二二二	云(連体法)	四一八四
いちかうせんねむ(一向専念)	四一〇五	いちぶつみやう(二仏名)	往	三三二	いへ(家)	二一一八
一向専念		一仏名	いへ(家)	三三二	家	二一一八
いちかうと(二向)	四一〇九	いづ(出)	いはく(曰・云)	三三二	いへども(雖)	↓しかりといへども
一向と		いてゝ	云	三三二	いへども	↓しかりといへども
いちかうに(二向)	四一三	いつか(五日)	云	三三二	いへども	↓しかりといへども
一向に		五日	云	三三二	いへども	↓しかりといへども
いちこん(一言)	二一五六	いづれ(何)	云	三三二	いへども	↓しかりといへども
一言		何	云	三三二	いへども	↓しかりといへども
いちさいぐんしやう(二切群)	二一四五	いづれも(何)	いはれなし(言無)	二二〇六	いへども	↓しかりといへども
二一四五		何	いはれなし(言無)	二二〇六	いへども	↓しかりといへども
いづれも(何)	二一四一五		いはれなし(言無)	二二〇六	いへども	↓しかりといへども
いづれも(何)	二一四一五		いはれなし(言無)	二二〇六	いへども	↓しかりといへども

いま(今)	いろいろに(色色)	うかがふ(伺)	うつされんに	二二二
いま	いろくくに	うかゝひたてまつる	うつしたてまつらん	二一九
229 四117 四167	いん(因)	うく(受)	うつしたてまつりけり	二二三
今 二208 三6 三33 四68 四102	因	うけ(中止法)	うつつ(現)	
いまだ(未)	いんきよす(隠居)	受けし	うつつゝ	四七〇
いまた	隠居したまふ	うけし	うつる(移)	
いまだき(今時)	いんぎん(懇懃)	うけたまはる(承)	うつり(中止法)	二二八
今時	いんだう(引導)	うけたまはりし	うまのとき(午時)	
いみな(諱)	引導	うじやう(有情)	午時	四一五
諱	いんとん(隱遁)	有情	うみ(海)	
いやし(苟)	いんにふす(引入)	うだいじん(右大臣)	海	一五二
苟	引入せむと也	右大臣	うるはし(美)	
いよいよ(愈)	四174	うち(中)	うるはしく	四六四
いよく	う	うちまろこ(内磨公)	うるふ(関)	
いよだつ(弥堅)	う(得・獲)	内磨公	うるほす(潤)	二九五
いよたちて	得ん	うつぐゑ(鬱悔)	うるほさむと	二二三
いる(入)	得ん	鬱悔	うんぬん(云云)	
いりしより	得ざる	うつす(移)	云々	一四〇 一四六 一七四 二
いろ(色)	獲此見寫之徒	うつさしむへし	111 二123 二140 二149 二154 二	
色	二163 二211 三51	うつさしめむと	194 二223 三16 三37 四74 四	

応鐘

四 190

おしひらく(排)

四 139

多と

二 133 四 182

え

おきて(於)  
をきて

四 98 四 127

おそらくは(恐)

四 139

おほす(仰)

三 36

えいかうす(影向)

影向したまへり 四 75

おきな(翁)

翁

四 64

おそらくは  
おどろく(驚)

二 157 二 234

被仰

一 49 二 161 二 184 三 32 四 71 四 95

えいかむ(叡感)

叡感 三 22

おくおくしゆじやう(億億衆)

おなじ(同)

三 51

おほたに(大谷)

二 142 二 200 四 140

えいざう(影像)

影像 四 173

億々衆生

四 99

おなじ(同)  
おなじく  
同(おなじき)

二 135

おほひなり(浩)

四 164 四 171

えつす(調)

調せむと 三 44

おこる(興)

四 60

おのおの(各各)

をのく  
二 146 四 88 四

おほぶのこほり(大部郷)

四 90

えん(縁)

縁 一 10 二 111

おさふ(抑)

一 50

おはします(御座)

103 四 166

おほゆ(覚)

一 46

えんぎあつ(縁起畫図)

縁起畫図 四 185

抑(連用形)

二 110

おほきなり(大)

二 192

おほよす(凡)

二 112 三 35 四 148

えんにんじ(延仁寺)

延仁寺 四 163 お

おさむ(収)

四 165

おほけなくも

三 23

おまへ(御前)

四 181

お

おうしよう(応鐘)

うぢむがし(押小路南万里)

四 161

おほし(多)

二 167

おもひ(思)

三 43



思ひ 四 149

恩 一 76

が(助詞)

かうみやうす(告命)

おもひで(思出)

二 137

おむ(御) ↓おむでし・おむ

か 一 59 二 76 二 138 二 158 二 169 二 181 二 189 四 65 四 68 四 144

かかぐ(掲)

一 35

思出

とし・おむぼう

が(我) ↓われ

かゝけて

二 236

おもふ(思)

おんきよ(恩許)

が(我) ↓われ

ががたり(峨々)

二 236

おもひ(中止法)

四 167

恩許

我

峨々たる

一 42

おもふ(連体法)

二 140 二 188 二 214 二 220 三 44 四 69

おんけん(隠頭)

我末法時中

かかはる(拘)

一 42

おもふに 二 232 四 81

おんじよ(恩怨)

がいしむ(害心)

拘て

二 157

おもむく(赴)

恩怨

害心

かがみる(鑿)

二 200

おもむかん

一 24

おんち(恩致)

かうざん(高山)

鑿て

二 200

赴むや

一 62

恩致

高山

かかる(掛)

二 200

おもむかすは

一 63

おむでし(御弟子)

かうす(号)

かゝりつゝ

四 59

おもむきましくけり 四 58

御弟子 二 138 二 197

号(終止形)

かきのころも(柿衣)

一 4 4

おもんず(重)

四 178

おむとし(御歳)

三 9 三 9 三 19

柿衣

三 53

重して

四 178

御歳

号す

かく(書) ↓しよす

三 53

重する砌

二 116

おむぼう(御房) ↓ぜんしん

かうぶる(蒙)

令書

二 94 二 96 二 101

おもんみる(以)

三 4

ごぼう・ほんぐわんごぼう

蒙て

書賜はず

二 88

以

三 4

か

蒙(連用形)

書載たまふ

二 154

およぶ(及)

四 58 四 61

か(助詞)

かうふるに

書て

三 21

をよむて

一 63 二 131 二 158

か(助詞)

かうみやう(告命)

かく(掛)

二 117

おん(恩)

一 63 二 131 二 158

か(助詞)

告命

かけ

二 117

かく(覚) ↓むじやうかく

かしこ(賢)

かたる(語)

かのととり(辛酉)

かくさん(岳山)

穴賢々々

四130

かたる(終止形)

二212

かのとのひつじのとし(辛未)

岳山

一42

穴賢々々

四130

かつうにふる(可通入路)

四101

かとのひつじのとし(辛未)

かくと(学徒)

かしこし(賢)

二190

可通入路

四101

歳

学徒

三8

かしこくて

二190

かつは(且)

二136

辛未歳

かくによ(覚如) ↓しやくか

かず(数)

二123

且は

二136

かはりあふ(替合)

四117

くによ

かす

二123

かとう(河東)

四161

かはりあふて

四117

覚如

かたし(難) ↓きんじがたし・しりがたし

河東

四161

かはる(替)

二184

かくのごとし(如之)

難

二108

かな(哉)

二131

かはると

二190

如之

かたじけなくも(忝)

四103

かなしむ(悲)

四163

かへりみる(願)

四189

かくのごとく

忝

四103

かなしみて

四163

かへる所

二182

かくべつ(格別)

かたち(形)

一32

かならず(必)

四73

かまこだいじん(鎌子大臣)

一2

各別

かたはら(傍)

一75

かねざね(兼実)

二103

かまへす

一71

かさねて(重)

かたぶく(傾)

四62

かの(彼)

一31

かまへす

一71

かさねて

かたふきぬ

四64

かの(彼)

一31

かまへす

一71

かさまのこほり(笠間郡)

傾たる

四64

かの(彼)

一31

かまへす

一71

笠間郡

かたよる(傾)

二188

かの(彼)

一44

かまへす

一71

かし(助詞)

かたよりのまはる

二188

かの(彼)

一44

かまへす

一71

かし

かたよりのまはる

二188

かの(彼)

一44

かまへす

一71

かしこ(彼此)

かたよりのまはる

二188

かの(彼)

一44

かまへす

一71

かしこ

かたよりのまはる

二188

かの(彼)

一44

かまへす

一71

かりつくるふ(刷)

四136

翰林

四186

ぎ(義)

きどく(奇特)

刷こと

四136

かむろ(甘露)

四186

義

一18 三11 三34 四106

奇特

二206 三43 四181

かる(駈)

四93

甘露

二237

義

四108 四116

きのえさる(甲申)

四193

駈れて

四93

かんみんだいじん(閑院大臣)

ぎ(儀)

↓せいぎ・そうぎ

甲申

四193

かるがゆ糸に(故)

↓ゆゑ

閑院大臣

一4

きい(奇異)

きのとうし(乙丑)

二91

かるかゆへに

二182

奇異

四148

乙丑

疑謗

三35

かろしむ(軽)

四131

き(助動詞)

九棘

きうきよく(九棘)

疑謗

二91

かろしむるに

四131

き(助動詞)

九棘

きうきよく(九棘)

疑謗

二91

かんえう(簡要)

二104

き

一14 二21 三31 二

きうじゆん(九旬)

きはむ(極)

一26

かんえう(簡要)

二104

き

一14 二21 三31 二

きうじゆん(九旬)

きはむ(極)

一26

かむおう(感應)

四77

し

92

一8 二54 三113 二129

きぎやう(起行)

四99

かむがふ(考)

三12

不考

二167 二170 二179 二183 三32

きく(聞)

↓とききかす

きやうあい(矜哀)

二86

かむさつ(鑿察)

二202

き(記)

一10

きざす(兆)

きやうおう(饗応)

二86

かむざ(感)

二206

記

一31

きざし(中止法)

饗応

四74

感するところ

二206

き(氣)

一31

きざし(中止法)

饗応

四74

かんふ(肝腑)

四106

き(機)

一31

きざし(中止法)

饗応

四74

かんふ(肝腑)

四106

き(機)

一31

きざし(中止法)

饗応

四74

かんりむ(翰林)

四96

機

四96

北大谷

ぎやうじや(行者)

四146

肝腑

四106

き(機)

四96

北大谷

ぎやうじや(行者)

四146

かんりむ(翰林)

四96

機

四96

北大谷

ぎやうじや(行者)

四146

行者	一三五	ぎよう (御宇)	今上	三九	九月	二三
きやうしやく (経釋)		御宇	きんしん (近臣)		くくまつ (口決)	
經釋	四一〇	ぎよく (玉)	近臣	一	口決	四八七
ぎやうしよう (行證)		玉女身	きむめいてんわう (欽明天皇)		ぐこう (弘興)	
行證	三二五	ぎよざ (御座)	欽明天皇	一五三	弘興	一四九
ぎやうぢうざぐわ (行往座臥)		御座	く		くさい (九歳)	
行往坐臥	四一三六	きよしよ (居緒)	く		九歳	一一
ぎやうふたい (行不退)		居緒	ぐあん (愚案)		くしす (駆使)	
行不退	二一四二一五二	きよちゆう (居住)	愚案	四一八	駆使して	四一四
きやうらい (敬礼)		居住	くう (空)		ぐせい (弘誓)	
敬礼	一八一	きる (着)	空真筆	二九四	弘誓	一五七
きやうろん (経論)		きたるか	空之真影	二九四	ぐぜぼさつ (救世菩薩)	
経論	一五〇	きる (切)	くうし (空師)		救世菩薩	一三二一三七一
きやうろんとう (経論等)		きり (中止法)	くうし (空師)	三二三四	くだす (降)	
経論等	一五五	きろく (記録)	くうしやうにん (空聖人)	三二三四	降て	二八八
きやくじん (客人)		記録	空聖人	三一六	くたし	三二二
客人	四七二	きむげん (金言)	くぎやう (恭敬)		くだすへしと	二二五
きゆうせん (弓箭)		金言	恭敬	二二二	くだる (降)	
弓箭	三二五	きむじがたし (禁難)	くぎやうす (恭敬)		くだり	一一二
きよ (居)		禁しかたし	恭敬すと	四七七	くだんの (件)	
居	四八六	きむじやう (今上)	くぐわつ (九月)			

照願寺蔵 本願寺親鸞聖人傳繪 総索引稿

かりつくろふくだんの

件	二二七 四九二 四一三	くまがいなほざねにふだう (熊谷直実入道)	くわしやういつかう(和尚一 向)	帰しき	二一五
くち(口)	二一五 四一四	熊谷直実入道	和尚一向	帰しつゝ	三三
ぐつう(弘通)	二一五 四一四	くまの(熊野)	くわせい(花城)	帰て	四八
弘通	一七六 三三〇	熊野	花城	くみせん(貴賤)	二二一 三二九
ぐつうす(弘通)	二二四	くらす(昏)	くわぶん(華文)	くみせう(貴僧)	二二二 四七五
弘通したまふ	二二四	昏(連用形)	華文	貴僧	二二二 四七五
くつきやう(屈敬)	二二六	昏(連体形)	ぐわん(願)	くみぼう(貴坊)	一一三 二二五 四一五〇
屈敬	二二六	くろたに(黒谷)	願	くみやうげん(狂言)	四一八
くつしやうす(屈請)	四七八	黒谷	くわんおむ(観音)	狂言	二二四 三二四
屈請したてまつりて	四七八	くわうだい(廣大)	くわんかい(願海)	くゑ(化)	二二四 三二四
ぐとく(愚禿)	二九〇 四一〇	廣大	ぐわんかい(願海)	くゑげん(化現)	一八四
愚禿	二九〇 四一〇	くわうたいこうぐう(皇太后 宮)	願海	化	二二四 三二四
くねん(九年)	四一七	皇太后宮	くわんぎやう(觀經)	くゑげん(化現)	一八四
文永九年	四一七	くわうたいし(皇太子)	觀經	化現	一八四
くはし(詳)	四一五	くわうたいし(皇太子)	くわんくゑ(勸化)	くゑしん(化身)	一一六 二八九
くはしく	四一五	皇太子	勸化	化身	一一六 二八九
くぼむ(九品)	四一一	くわうてい(皇帝)	ぐわんよう(願容)	くゑす(化)	一一六 二八九
九品	四一一	皇帝	顔容	化せむ	一一六
ぐまい(愚昧)	一七〇	くわうとく(廣徳)	くゑす(帰)	くゑせう(化僧)	二二三 二二六
愚昧	一七〇	廣徳	兮帰	化僧	二二三 二二六

くゑちぢやう (決定)	群集せりと	一 43	けうしゆ (教主)	結縁	四 119 四 121
決定	ぐんしやう (群生)	↓いちさ	教主	けつく (結句)	四 117
くゑちぢやうす (決定)	いぐんしやう		けうみやう (教命)	結句	三 38
決定しまし〜けり	ぐんるい (群類)		教命	けふし (脇士)	二 103
ぐゑんきやう (元久)	群類	一 64 四 121	けうるづらい (教流通来)	脇士	一 81
元久			教流通来	けり (助動詞)	一 29 二 196 二 230 三
ぐゑんくう (源空)	けいす (詣)		げかう (下向)	けり	4 三 25 三 46 四 58 四 80 四
にんぐゑんくう	詣せむ	四 125	下向	ける	89
源空一 61 二 86 二 161 二 166 二 189	詣へし	四 93	げさ (袈裟)	げろん (戲論)	四 186
ぐゑんくうしやうにん (源空)	詣す	四 181	げしじふしやう (下至十声)	けん (間) ↓あひだ	四 186
聖人)	けう (希有)		下至十声	けん (顕)	四 187
源空聖人	希有	二 105	げじゆん (下旬)	けんくゑしんどもんるい (顕化身土文類)	三 4
ぐゑんくうほふし (源空法師)	けう (教)	一 25 三 6	下旬	けんしや (見写)	二 108
源空法師	教		げだい (外題)	けんじや (賢者)	三 49
ぐゑんそん (玄孫)	げうかう (暁更)	四 61	外題	けんじや (賢者)	三 49
玄孫	暁更		げだし (蓋)	けんじや (賢者)	三 49
ぐゑんふう (玄風)	けうぎやう (教行)	二 234	蓋	けんじや (賢者)	三 49
玄風	教行		げだつ (解脱)	けんじや (賢者)	三 49
ぐんきよす (群居)	けうくゑ (教誨)	一 70 二 107	げだつ (解脱)	けんじや (賢者)	三 49
群居すと	教誨		解脫	けんじや (賢者)	三 49
ぐんしふす (群集)			けちえん (結縁)	けんじや (賢者)	三 49

賢者	四 188	興し	一 69	爰	二 194
けんじやうどほうべんくゑし		こうちやう(弘長)	四 174	斯	三 8
んどもんるい(顕浄土方便化)		弘長	四 153	こゝぬか(九日)	
身土文類)		こうふくじ(興福寺)		九日	一 78
顯浄土方便化身土文類	二 89	興福寺	三 8	こゝろ(心)	
けんしやす(見写)		こうほふ(興法)	三 8	こゝろ	一 44
見写し	二 87	興法	一 9	こゝろ(意得)	二 177
けんぜんしやうじん(賢善精進)		こうむ(公務)	一 58	意得らるへき	二 194
賢善精進	四 129	公務	四 124	こゝろざし(志)	
けんそ(險阻)		こかつ(枯渴)		こゝろざし	一 20
險阻	四 59	枯渴	二 238	こゝろざし	二 20
けんちやう(建長)		こきやう(故郷)		志	二 200
建長八年	一 78	故郷	四 81	こゝろづく(心附)	二 185
けんニン(建仁)		こくぐん(国郡)		心つきて	三 44
建仁第三	一 19	国郡	四 176	こゝろみる(試)	
建仁三年	一 30	こくふ(国府)		試と	二 140
建仁辛酉	二 90	国府	三 17	こしふひつ(御執筆)	
けんりやく(建暦)		こくらく(極楽)		御執筆	二 151
建暦辛未歲	三 19	極楽	一 37	こしらかはじやくくわう(後)	
		こゝ(此)		白河上皇	一 12
		こゝ	二 155	後白河上皇	
		こゝ	二 218		
		こゝ	三 30		

ごしんじむ (御信心)	事	一 84 二 121 二 168 二 185	ことほり	二 178	このゆゑに (是故)	
御信心		二 169 二 172 二 180	ごながをかだいじん (後長岡大臣)		是故	三 14
こそ (助詞)		四 149 四 151 四 152 四 175 四 178	後長岡大臣	一 4	このゑたいしやう (近衛大将)	
こそ	こと	一 57 一 73 二 135 二 173	五年	三 15	御坊	二 218
ごそく (御息)		二 200 二 233 四 126 三 21 四 136	ごねん (五年)		ごぼう (御坊)	
御息		四 155 四 157 四 169	この (此)	一 38 一 47 一 66 二	ごひつ (御筆)	
ござる (挙)	こと (辭)	三 43	この	225 二 232 四 72 四 103	ごふ (業)	
こそり	辭	二 114	此	一 44 二 108 二 141 二 171	往生之業	二 93
ごだい (五代)	ことごとく (盡)	二 114 四 65	二 213 四 150	このかた (以来)	巨益	四 96
五代	ことごとく		以来	一 14 二 129 四 153	こゆ (越)	三 26
ごちよくあくじ (五濁悪事)	ことし (如)	四 82 四 82	このかた	二 179	越て	
五濁悪事	ことく	一 44	このころ (今比)	四 87	越たり	四 176
ごつじとして (忽爾)	ことに (殊)	一 25 四 146	今比		これ (是・此・斯・之・茲)	
忽爾として	ことに	四 73	このとき (此時)	二 162	是	一 12 一 21
ごつもく (骨目)	ことば (詞)	四 141	此時	一 55 三 21 三 31 四 173		一 38 一 51 一 69 二 105 二 109
骨目	詞	四 106	このとき	二 162		二 109 三 2 三 55 四 77 四 181
ごでう (五条)	ことばらん (後鳥羽院)	四 144 四 187	このほか (此外)	三 18	これ	一 26 一 53 一 64 二
五条	後鳥羽院	三 9	此外		此外	
こと (事)	ことわり (理)					

照願寺蔵 本願寺親鸞聖人傳繪 総索引稿 けんじやうどはうべんくゑしんどもんるいーこれ 三五二



114 115	120	120	133	二	こんげん (権現)	在生	二112	四181	霜雪	一	7
154	218	356	485	四110	権現	さいししよう (最勝)	二106		さうでん (相伝)	四	174
111	113	123	143	四165	こむげんさい (今現在)	最勝			相伝	四	174
182					今現在	さいす (在) ↓せふさいす			さうなし (左右)	二	204
					こむにち (今日)	さいせ (在世)			左右なく		
					今日	さいてん (西天)	二86	四167	さかひ (堺)	二	204
					こむねん (今年)	西天	一50		さかりなり (煽)	四	57
					今年	さいみやう (罪名)			煽なり	一	69
						罪名	三16	三17	盛 (終止形)	三	6
					ざ (座)	さいろく (西麓)			盛なる事	四	175
					座	さうおうす (相応)	四162	四170	さき (前)	一	12
					ざいくわ (罪科)	相応すれば	三96		従四位上前若狭守	一	12
					罪科	ざうじ (造次)			前大僧正	一	12
					ざいくわす (罪科)	造次	四137		さしおく (闔)	二	127
					罪科せらるへき	さうしよのへん (草書之篇)			闔て	二	127
					ざいこくす (在国)	草書之篇	四191		さしはさむ (挿)	三	38
					在国し	さうす (葬)			挿て	三	38
					さいしやう (宰相)	葬したてまつる	四163		さず (座) ↓つみす	一	3
					宰相	さうせつ (霜雪)			さだいじん (左大臣)	一	3
					さいしやう (在生)				左大臣	一	3

さては(然) 三經 四107 さむねん(三年・三季) 宗 一25

さては 二220 さむくわい(三槐) 三年 一30二231 しょうぎ(宗義) 四174

さどのみん(佐渡院) 三19 さむくわんぶつじょう(三観) 二117 さむはい(三輩) 四193 じうてき(戒狄) 二119

佐渡院 三19 仏乘) 三観仏乘 一16 さむびやくはちじふよにん 四109 戒狄 二119

さとりやすし(諭易) 二106 参詣す 四133 三百八十余人 二123 しか(然) 一6四122

易諭(連用形) 二106 さむけいす(参詣) 四142 さむびやくよにん(三百余人) 二146 しかあれば 一6四122

さふぎやう(雜行) 二90 参詣するやと 四103 さんろく(山麓) 四164 しかありといへとも 二123

雜行 二90 さむこく(三國) 四103 山麓 四164 しかあるに 二132

さほふ(作法) 四134 参詣するやと 四142 さむびやくよにん(三百余人) 二146 しかありといへとも 二123

作法 四134 さむこく(三國) 四103 さんろく(山麓) 四164 しかあるに 二132

さまざまに(様様) 四79 さむこさい(三御歳) 二102 しかあるに 二132

さまざまに 四79 三御歳 二102 しかあるに 二132

さむ(悟) 一46 さむしふ(参集) 二138 し(之)↓の 二193 しかうして(而) 四186

悟畢 一46 参集 二138 じ(字) 二193 しかうして 四157

さめ 二224四75四148 参集 二138 し(之)↓の 二193 しかしながら(併) 一69四182

さら(更) 二170二189四126四135 参集し給けり 四89 字 二93二101二101 併 一69四182

さら(更) 二170二189四126四135 参集し給けり 四89 字 二93二101二101 併 一69四182

更 二156三42四105 さむしむ(三心) 四111 し 二193 可然 二141

さるよ(去夜) 三心 四111 し 二193 可然 二141

去夜 二206 さむちやく(参着) 四138 しょう(宗) 二141 可然 二141

さむぎやう(三經) 参着 四138 しょう(宗) 二141 可然 二141

雖然	四 188	しけう(四教)		緇素老少	四 179	じつきん(昵近)	
しかるに(然)		四教	一 18	した(舌)		昵近	二 122
然	二 90 三 6	しけう(師教)		舌	二 195	して(助詞)	
爾	二 108	師教	一 64 四 137	じた(自他)		つたなくして	一 22
而	二 142 四 92 四 102 四 165	じげん(示現)	四 74	自他	二 135	にして	一 41 二 139 三 34
しかるに	二 225 三 36	示現		したがふ(從)(四段)	四 124	を	三 41 四 141
而に	四 105	じげんす(示現)	一 33	したがふ(從)(下二段)	四 135	して(緇徒)	四 121
しかれば(然)		示現して		したかへて	四 88	緇徒	
然者	一 49 二 153	しさい(死罪)	三 12 三 18	したふ(慕)	二 95	しばしば(屢)	二 122
しかれば	一 83	死罪		したひ	四 88	しば(屢)	一 15
爾者	二 180 二 228 二 233 四 114 四 127	じしう(自宗)	四 106	しちぐわつ(七月)	二 95	しはらく(暫)	二 160 三 25 三
しきぶきやう(式部卿)		自宗		七月	二 95	しはらく	
式部卿	一 4	しじふはちぐわん(四十八願)	二 118	しちじふご(七十五)	四 194	じふはうしゆじやう(十方衆)	四 86 四 111
しきむ(紫禁)		四十八願		七十五	四 194	じふはうしゆじやう(十方衆)	
紫禁	二 115	ししゆ(旨趣)	一 27 一 39	しちじゆん(七旬)	二 102	生	
しく(如)		旨趣		七旬	二 102	十方衆生	二 97
如之	二 131	じしん(侍臣)	三 22	しちでうへん(七條辺)	二 201	しふひつ(執筆)	二 159 四 192
しぐわつ(四月)		侍臣		七條辺	二 201	執筆	
四月	一 30	じしむ(自心)	四 126	しちんくわしやう(慈鎮和尚)	一 12	しふゑ(集会)	二 143
子月	三 19	自心		慈鎮和尚	一 12	集会	
		しそらうせう(緇素老少)					

じみやう(自名)		じやういちゐ(正一位)	上旬	浄土	54 二89 二193 三5
自名	二159	贈正一位	じやうじん(生身)	じやうどいちもん(浄土一門)	
しむ(占)		じやうえ(正依)	生身	浄土一門	四100
占と	三28	正依	じやうしんぼう(聖信房)	じやうとくたいし(聖徳太子)	
しむ(閉)		じやうかく(正覚)	聖信房	聖徳太子	一80
しめたまふ	四86	正覚	じやうず(成)	じやうどしう(浄土宗)	
しむ(助動詞)		じやうぐうたいし(上宮太子)	成したらんこと	浄土宗	三1
しめむ	二214	上宮太子	成すへからす	じやうどもん(浄土門)	
しめ(連用形)	一33 一46	じやうげう(聖教)	じやうずい(常随)	浄土門	二129
令(連用形)	二94 二96 二101	聖教	じやうそう(聖僧)	じやうにん(聖人) ↓ぐゑんく	
二104		じやうこふ(正業)	常随	うしやうにん・しんらんし	
しむべし	一40 二202	正業	じやうぞく(装束)	やうにん・ぜんしんしやう	
しめす(示)		じやうこむ(莊嚴)	じやうそ(く)	にん・たいししやうにん	
示給へと	二146	莊嚴	じやうだい(聖代)	聖人	一1 一12 一19 一
しめすところ	一60	じやうじや(生者)	じやうだう(聖道)	25 一30 一49 一61 一65 一	
じやう(生)		生者	じやうだう(聖道)	75 一83 二102 二141 二161 二	
生	一37	じやうじや(聖者)	じやうだうもん(聖道門)	169 二171 二180 二197 二199 二	
じやう(姓)		聖者	聖道門	232 三21 三26 三31 三34 三	
姓	三14	じやうじゆす(成就)	成就し	39 三39 三44 三45 三50 三	
じやう(成)		成就し	じやうど(浄土)	55 四57 四62 四81 四91 四	
我成	一36	じやうじゆん(上旬)	じやうど(浄土)	94 四143 四151 四153 四174 四	

181

しやうにんぐゑんくう (聖人源空)	しやくかくによ (釈寛如)	社廟	四66 四125	しゅじやう (主上)	三10
聖人源空	釈寛如	しゃみほぶりき (沙弥法力)	四194	主上	
しやうにんしんらん (聖人親鸞)	しやくくう (綽空)	沙弥法力	二149	しゅじやうりやく (衆生利益)	三30
聖人親鸞	綽空	じゆいちゐ (従一位)	二101	衆生利益	
じやうみぶつ (成仏)	しやくしやくくう (釈綽空)	従一位	一3	じゅしゐじやう (従四位上)	一11
成仏	釈綽空	しゆうえん (終焉)	二94	従四位上	
じやうぶつ (成仏)	しやくしんくう (釈信空)	終焉	二148	しゆだう (修道)	四99
成仏	釈信空	しゆぎやう (修行)	四97	修道	
じやうみやう (姓名)	しやくす (釈)	修行	四114	しゆつごん (出言)	二139
姓名	釈す	しゆくうつ (宿讎)	三50	出言	
しやうめん (正面)	しやくもん (釈門)	宿讎	三31	じゆつす (述)	三50
正面	釈門	しゆくねむ (宿念)	三31	述すと	
じやうもつ (常没)	しやくらん (釈鸞)	宿念	二90	しゆつり (出離)	二130
常没	釈鸞	しゆくほう (宿報)	一35	出離	
しやうれき (聖曆)	しやくれんゐ (釈蓮位)	宿報	一78	じゆとくす (受得)	一28
聖曆	釈蓮位	じゆさむゐ (従三位)	一11	受得し	
じやうろん (評論)	じやしやう (邪正)	従三位	一11	じゆりむ (樹林)	二116
評論	邪正	しゆしや (取捨)	四188	樹林	
しやく (笏)	しやす (謝)	取捨	二167	じゆりむ (儒林)	三7
笏	謝せむか	しゆじやう (衆生)	二99 四118	儒林	
	しやべう (社廟)	衆生	二99 四118	じゆんず (順)	

順して 一 67 しよげう(諸教) 親友 二 136

じゆんとく(順徳) 諸教 三 5 しよむ(所務) 四 93 親友 二 136

順徳 三 19 しよじ(諸寺) 三 5 しよゐ(所為) 四 93 真影 二 95 二 96 二 109 二

しやうがみやうがう(称我名) 諸寺 三 6 所為 三 2 しんか(臣下) 三 10

号) しよしやす(書写) 二 108 しりがたし(知難) 二 135 臣下 三 10

称我名号 二 97 書写し 二 108 しりかたし 二 135 しんくう(信空) ↓しやくし

しやうぐゑん(承元) 二 97 書写し 二 108 じりき(自力) 二 157 二 185 んくう

承元丁卯 三 9 処々 四 177 自力 二 157 二 185 しんけ(真假) 三 6

しやうじやうす(證誠) 三 9 処々 四 177 自力 二 157 二 185 しんけ(真假) 三 6

證誠す 四 113 処せられたまはず 一 61 不知 三 6 真假 三 6

しやうじやうでん(證誠殿) 四 113 処(終止形) 三 13 しらす 四 178 しむざん(深山) 三 40

證誠殿 四 116 四 139 しよす(書) ↓かく 二 137 しり 二 137 深山 三 40

しやうだう(證道) 書 二 91 四 193 しるす(註) 二 111 参差 三 43

證道 三 5 しよほう(諸方) 三 15 註 二 111 参差 三 43

しやうち(勝地) 諸方 三 15 じゑん(慈円) 二 111 しんしう(真宗) 一 24 二 48 二 68 二

勝地 四 86 しよぶつ(諸仏) 四 113 慈円慈鎮和尚 一 12 真宗 一 24 二 48 二 68 二

しやうねむ(称念) 諸仏 四 113 しん(親) 二 107 しんじつ(真实) 二 134

称念 二 100 しよまう(所望) 四 113 親 二 107 しんじつ(真实) 二 134

しやうみやう(称名) 所望 二 140 しん(信) 二 185 二 186 しんじゆん(信順) 三 36

称名 四 157 しよみん(庶民) 四 91 しんしう(親友) 二 185 二 186 信順 三 36

しよか(初夏) ↓そか 庶民 四 91 しんしう(親友) 二 185 二 186 信順 三 36

しんじむ (真心)

んどもんるい

真心 一 28

しんひつ (真筆)

しんじむ (信心)

真筆 二 88 二 94 二 96

信心 二 134 二 169 二 172 二

しんふたい (信不退)

177 二 181 二 184 二 187 二 188 二

信不退 二 144 二 149 二 152

189 二 189 二 191

二 153 二 161

しんじん (真信)

しんもん (真文)

真信 二 158

二 100

じむしむ (甚深)

しんらん (親鸞) ↓しやうに

甚深 二 106

んしんらん

しんず (信)

親鸞 一 75 二 197

信して 四 91 四 123

しんらんしやうにん (親鸞聖人)

信へし 二 239

親鸞聖人 一 80 二 90

信するに 二 191

しんぬ (神威)

しんせつ (真説)

しんぬ (神威) 四 130

真説 四 102

じんをく (人屋)

しむちはくらん (深智博覧)

じんをく (人屋) 四 60

深智博覧 二 175

人屋 四 60

しんちよく (神勅)

す 二 181

しんど (身土) ↓けんくゑし

す (為) ↓あんず・あんない

神勅 四 77

す 二 193

す・いす・いたす・いぢう

んぜつす・せんねむす・そ

す・いんきよす・いんにふ

うたつす・そもんす・た

す・えいかうす・えつす・

いざす・たいす・ただしく

おもんず・がうす・かうみ

す・たつす・たんざす・ち

やうす・かんず・くぎやう

さんす・ちやくふくす・つ

す・くしす・ぐつうす・く

みす・ていぢよす・ねむぶ

つしやうす・くるす・くゑ

つす・はいす・はいたいす・

す・くゑちぢやうす・ぐん

はんず・ひとしくす・ふか

きよす・ぐんしふす・けい

くす・ふがふす・ふぞくす・

す・こうぎやうす・こうす・

へうす・へんふす・ほうび

こつしよす・ぎいくわす・

す・ほつきす・まんぞくす・

ざいこくす・ざいす・さう

らいしす・らいす・らいに

おうす・さうす・さんけい

ふす・りふす・りやくす・

す・さんしふす・じうまん

わうふくす・わうへんす

す・じげんす・じやうじゆ

せん 四 123

す・じやうず・しやくす・

しはむへらむ 二 138

しやくす・じゆつす・じゆと

しはむへる 二 168

くす・じゆんず・しようじ

して 二 211 四 121

やうす・しよしやくす・しよ

す《助動詞》 二 181

す・しんず・ずいきす・せ

せたまふ 二 181

うめつす・せふざいす・せ

せたまはし 二 193

書賜はず 二 88

ず《助動詞》

すは 一 56 一 61 一 63

す 一 71 二 119 二 126 二 153

二 170 二 190 二 191 三 42 四 70

四 98 四 127 四 129 四 131 四 149

四 155 四 156 四 178 四 182

すと 二 120 四 132 四 168

すよりは 二 130

すとて 二 227

不 三 6 三 12 四 185

さる(連体法) 二 147

さるへき 二 175

さるに 四 75

さるそや 四 116

ずいき(随喜) 二 228

随喜 二 228

ずいきかむたん(随喜感歎) 二 211

随喜感歎 二 211

ずいきす(随喜) 二 203

随喜して 二 203

すいじやく(垂跡・垂迹) 一 58 四 120 四 120

垂跡 一 66 四 127

すうせんまんおく(数千万億) 一 43

数千万億 一 43

すうひやくにん(数百人) 二 155

数百人 二 155

すぐ(過) 四 72

過たまふ 四 72

すくなし(少) 三 36

すくなし 三 36

すこしも(少) 二 209 二 227

すこしも 二 209 二 227

すこぶる(顔) 三 43 四 175

顔 三 43 四 175

すすむ(勸) 四 109

勸て 四 109

勸るところ 四 104

すたる(廃) 三 5

廃(連用形) 三 5

すつ(棄) 四 83

すつ 四 83

棄(連用形) 二 90

すて 三 52

すでに(既・已) 二 108 三 33

既 二 108 三 33

すてに 三 14

すてに 四 61

すなはち(則・即) ↓そくと 四 61

く 四 61

則 一 21

すなはち 一 54 一 58 一

234 三 46 三 55 四 98 四 115 四

即 二 141 四 106

すはい(数輩) 三 12

数輩 三 12

すべて(都) 二 123

都 二 123

すへて 四 176

すみか(栖) 四 83

栖 四 83

せうしやうす(召請) 四 112

せうしやうす(召請) 四 112

せいかく(聖覚) 二 148

聖覚 二 148

せいぎ(整儀) 三 134

整儀 三 134

せいきう(青宮) 二 115

青宮 二 115

せいぐわん(誓願) 一 38 一 38 四 122

誓願 一 38 一 38 四 122

せいくわんぼう(勢観房) 二 166

勢観房 二 166

せいさく(製作) 二 87 二 109

製作 二 87 二 109

せいし(勢至) 一 65

勢至 一 65

せいやく(誓約) 四 130

誓約 四 130

せうぎやう(小経) 四 112

小経 四 112

せうしやうす(召請) 四 112

せうしやうす(召請) 四 112



召請す	二〇三	ぜんか(禪下)	宣説して	一	39		
せうめつす(消滅)		禪下	ぜんぢやうはくりく(禪定博陸)	二	215	そ	
消滅して	三48	ぜんくわうじ(善光寺)				(そ(疎))	
せうりう(紹隆)		善光寺	禪定博陸	二	103	疎	
紹隆	一24	ぜんしつ(禪室)				ぞ(助詞)	
せうろ(小路)		禪室	せんぢやく(選擇)	二	91	そや	
小路	一23	せんしふ(選集)	せんぢやくほんぐわんねむぶ			そう(僧)	
せきさい(碩才)		選集	つしふ(選擇本願念佛集)	二	213	僧	
碩才	三3	せんじゆつ(選述)	選擇本願念佛集	二	92	2102	ぞう(贈)
せじ(世事)		選述	せんとく(先徳)	二	86	贈左大臣	
世事	四154	ぜんしん(善信)	せんねむ(專念)	二	109	贈正一位太政大臣	
せつ(設)		善信	せんねむす(專念)	二	72	そうぎ(僧儀)	
設女犯	一36	150 二169 二174 二181 四144	専念するに	一	21	4160	そうたつす(奏達)
せつ(節)		ぜんしんごばう(善信御房)	ぜんぼう(禪坊)	一	21	4160	奏達
節	三42	善信御房	せんまん(千万)	二	107	初夏	そうもんす(奏聞)
せぶざいす(撰在)		ぜんしんしやうにん(善信聖人)					奏聞し給ふに
撰在	二105	善信聖人					そか(初夏)
せふしやう(撰生)		ぜんしんばう(善信房)					そく(息)
撰生	一27	善信房					真楯息
ぜんあく(善悪)		ぜんぜつす(宣説)					
善悪	二187	二171 二189					

ぞく(俗) そのとき(其時・爾時) そんよう(尊容) だいししやうにん(大師聖人)

俗 三14 爾時 一40 尊容 一60二226 大師聖人 一60一65二

ぞくしやう(俗姓) 其時 一43 た だいしちにち(第七日)

俗姓 一1 そのとき 二146四142 だいきやう(大経) 第七日 三19

ぞくじん(俗人) そむ(染) 染(連用形) 四186 だいにち(第九日) 第四日 二92

俗人 四140四142四145 そむく(背) 背(連用形) 三10 だいくわしやうる(大和尚位) 大織冠 一2

そくとく(即得) 一82 抑 一60 たいざす(对座) 大進 一6

決定即得 一82 抑 一60 たいざす(对座) 大進 一6

そくわい(素懷) 三54 たいざす(对座) 四143 だいじん(大臣) ↓かんらん

素懷 三54 たいざす(对座) 四143 だいじん(大臣) ↓かんらん

そし(祖師) 一83四103 哉 二151 だいさむ(第三) 一19 じん

祖師 一83四103 哉 二151 だいさむ(第三) 一19 じん

そそく(注) 二238 夫 一1四95 だいさむれき(第三層) 四190 たいす(对)

そそく(注) 二238 夫 一1四95 だいさむれき(第三層) 四190 たいす(对)

そゝきて 二238 爾 一14四154 第三層 四190 たいそ(大祖)

その(其) 一42二122二124二 尊顔 二205三47 たいし(太子) 一66

その 一42二122二124二 尊顔 二205三47 たいし(太子) 一66

212四89四125四142 尊敬 四71 だいし(大士) ↓にだいし

其 二107二147二175三13 尊敬 四71 だいし(大士) ↓にだいし

342四125四144四151四178 尊重 二221四77 だいじ(大慈) 一81

四186四187 尊重 二221四77 だいじ(大慈) 一81

だいだう(大道)	道路	三 7	只今	四 71	たづぬ(尋)	一 21
大道	たかし(高)	一 23	ただし(但)	四 97	尋參	三 28
だいなごん(大納言)	たかく	一 52	但	四 97	たつね(中止法)	四 89
大納言	たかなり(尊成)(人名)	三 9	ただし(正)	四 140	尋て	四 89
だいに(第二)	諱尊成	三 9	たゞしき(連体法)	四 140	たづねまうす(尋申)	四 94
第二	たがふ(違)	二 227	たゞしくす(正)	二 117	尋申む	三 45
だいはちにち(第八日)	たかはすとて	二 209	たゞしくして	四 76	尋申に	二 198
第八日	たかふところ	二 210	正する	一 73	たてまつる(奉)(補助動詞)	二 13
たいれい(類齢)	たくはふ(蓄)	二 131	ただちに(直)	二 118	うつしたてまつらん	一 80
類齢	蓄哉	二 120	直に	四 76	相具し奉て	二 205
たうじ(当時)	たぐひ(類)	一 4	ただひと(只人)	二 210	禮し奉て	四 66
当時	たじやうだいじん(太政大臣)	三 9	たちどころに(立所)	二 31	むかひたてまつりて	二 230
だうぞく(道俗)	太政大臣	三 9	たちまちに(忽)	二 31	うつしたてまつりけり	四 66
道俗	たじやうてんわう(太上天皇)	三 9	たちまちに	二 31	出會たてまつりて	四 66
たうち(当知)	太上天皇	三 9	三 31	三 47	尊重囑請したてまつりて	四 78
当知	ただ(只)	三 9	たつ(立)	四 173	申預奉思絵	二 95
たうちやう(刀杖)	たゝ	一 71	たて	四 173	うかゝひたてまつる	三 39
刀杖	121 四 129 四 134 四 155	二 190	たつす(達)	一 16	葬したてまつる	四 163
たうらい(当来)	只	四 188	達し	二 208	拝したてまつる	二 208
当来	ただいま(只今)	四 188				
だうろ(道路)						

むかひたてまつる容兒 <small>(翁)</small>	二 209	ほとこしたまはすは	一 56	留またふ	四 120	たも	二 126
見たてまつる尊容	二 206	處せられたまはすは	一 61	めぐらしたまふへからす	四 132	たゆ <small>(絶)</small> ↓いきたゆ	
むかひたてまつるに	三 47	書賜はす	二 88	まみえたまふ	四 144	たゆること	四 157
たなごころ <small>(掌)</small>	二 218	まいらせたまはし	二 193	満たまふ	四 160	たり <small>(助動詞)</small> <small>(完了)</small>	
たのむ <small>(憑)</small>	二 218	剃除し給き	一 14	のへたまふに	一 26	たらん	二 135
憑 <small>(連用形)</small>	四 188	尋参たまひき	一 21	弘通したまふ教行	二 234	たりしに	二 170
たびたび <small>(度度)</small>	三 41	ひろめ給しに	二 113	奏聞し給ふに	三 22	たり <small>(終止形)</small>	四 176
度々	三 41	在国したまひけり	三 25	ひろめたまふに	三 35	たるへき也	二 145
堪て	一 17	往反したまひけるに	三 40	案内したまふに	四 63	たる <small>(連体法)</small>	四 64 四 65
たふ <small>(堪)</small>	三 41	出會たまひけり	三 46	影向したまへり	四 76	たるに	四 95
たふとひす	二 120	つけたまひき	三 56	示給へと	二 146	たり <small>(助動詞)</small> <small>(断定)</small>	四 128
たまはく <small>(給)</small>	二 127	移住したまひき	四 85	たむぬ	二 146	たりなから	四 128
申たまはく	二 127	参集し給けり	四 89	たむぬへし	二 223	たるほど	二 137
たまはる <small>(賜)</small>	二 181	臥給て	四 158	ため <small>(為)</small>	二 223	たりき <small>(他力)</small>	
たまはらせたまふ	二 181	崇たまふ	一 75	ため <small>(為)</small>	一 59 二 77 二 138 三	たりき <small>(他力)</small>	一 27 二 180 二 181 二 187
賜姓名	三 13	つきたまふへし	二 145	ため	一 59 二 77 二 138 三	たりきしんじむ <small>(他力信心)</small>	
たまはる <small>(連体法)</small>	二 188	書載たまふ	二 155	たむぬへし	二 223	たりき <small>(他力)</small>	二 178
たまはる <small>(給)</small> <small>(補助動詞)</small>	二 188	のせたまふ	二 160	たむぬへし	二 223	たりき <small>(他力)</small>	二 178
		隠居したまふ	三 27	たむぬへし	二 223	たりき <small>(他力)</small>	二 178
		過たまふへき	四 72	ためひと <small>(為仁)</small> <small>(人名)</small>	四 185 四 186	たりき <small>(他力)</small>	二 113
		しめたまふ	四 87	諱為仁	三 9	たりき <small>(他力)</small>	二 113
				だも <small>(助詞)</small>		たる <small>(足)</small>	二 126
				だいだうーたる		たらす	二 126

たれり	一七二	仲冬	四一五	四一三	朔日	四一三
たれひと(誰人)		ちおん(知恩)			つかふ(仕) ↓ つかまつる	
たれ人	二二六	知恩	四一五	橋	つかまつる(仕)	
たんごむ(端巖)		ちかし(近)		定禅法橋	仕て	一七
端巖	一三二	ちかき所	四六六	ちやくふくす(着服)	つかうまつりて	二一三
たんざす(端座)		ちかづく(近付)		ちやくせしめ	仕る	一七三
端座し	一三四	近づくに	四六〇	ちよくせ(濁世)	つき(月)	
ち		ちきせつ(直説)		濁世	つき(次)	二一八
ちう(中)		直説	二二五	ちよくめん(勅免)	月	四六一
中	一八二	ちきにふ(直入)	二二八	勅免	つき(次)	
ちうぐわん(重願)		直入		ちよくん(儲君)	次	
いぢうぐわん		ちさむす(遅参)		儲君	つきて(就)	二一四
重願	一七一	遅参して	二一五〇	ちゑ(智慧)	就て	四一〇
ちうしゆん(仲春)		ちまた(衢)		智慧	つきのわたの(月輪殿)	
仲春	三九	ちやうあん(長安)	三二九	ちんみ(珍珠)	月輪殿	一一二
ちうじゆん(中旬)		長安		珍珠	つく(着)(四段)	二一〇
中旬	二九二	ちやうけい(長兄)	四八三	つ	つきたまふへし	二一四
ちうせつ(忠節)	三一九	長兄	四一六〇	つ(助動詞)	可着	二一四
忠節	四七三	ちやうぜん(定禅)		つ	つく(付)(下二段)	二一四
ちうとう(仲冬)		長兄		つる	附冥	四一八
		定禅	二二四	ついたち(朔日)	附顯	四一八
			二二六		つく(告)	
			二二八			

告	一 31	つるに	四 112	四 158	二 88	二 128	二 128	二 132	二 139	ていきふす
つけ	三 56	づほくめんさいうけふ(頭北)			二 150	二 157	二 160	二 171	二 174	ていぢよす(剃除)
つくす(尽)		面西右脇)			二 177	二 182	二 185	二 191	二 192	剃除し給き
つくし	一 25	頭北面西右脇		四 158	二 195	二 199	二 200	二 201	二 203	ていねい(丁寧)
つげ(告) ↓むこく		つみす(坐)			二 205	二 210	二 211	二 216	二 219	丁寧
告	一 79	坐(運用形)			二 221	二 224	二 226	二 236	二 238	てう(朝)
つたなし(拙)		坐(終止形)			三 21	三 26	三 37	三 38	三 45	朝
つたなくして	一 22	つらつら(倩)			三 45	三 48	三 49	三 53	四 60	てう(條)
拙	四 187	倩		一 46	四 66	四 78	四 78	四 81	四 89	條
つたふ(伝)		つらく		二 232	四 93	四 109	四 111	四 123	四 125	てうてい(朝廷)
つたへ(中止法)	四 87	つらなる(連)			四 135	四 139	四 140	四 141	四 143	朝廷
伝える	一 51	つらなり侍へし		二 161	四 143	四 146	四 150	四 158	四 162	でしら(弟子等)
つちみかどあん(土御門院)		づゑ(図畫)			四 164	四 168	四 171	四 172	四 174	弟子等
土御門院	三 9	図畫		二 95	四 177	四 179	四 180			てん(天)
つつ(助詞)		て			四 177	四 179	四 180			天
つゝ	三 38	て(助詞)			をよむて	四 59	四 61			てんはい(顛沛)
つねに(常)	63	て			て(接続助詞)	顛沛				顛沛
つねに	340	て			あらて	四 70				と
つひに(終)	三 54	一 35	一 39	一 45	一 46	一 47				と(助詞)
終に	一 50	一 68	一 73	一 80	一 87					と
		ていきふす(涕泣) ↓れんぼ			四 187					と

46	74	84	121	123	どうじつ(同日)	ときん(頭巾)	所	2104	2169	2183	2208
124	134	137	140	140	同日	頭布	327	467			
142	146	149	151	152	とうど(東土)	とく(得) ↓そくとく	52				
154	156	162	169	169	東土	とく(徳)					
170	172	172	172	174	どうねん(同年)	徳	2109				
174	183	183	185	194	同年	とく(説)					
198	202	210	214	216	とうはう(東方)	説て	4111				
218	221	223	233	235	東方	とぐ(遂)					
239	23	27	28	29	とがむ(咎)	とけす	342				
33	33	40	42	44	とかめて	とけき	354				
50	69	74	78	91	とき(時) ↓いまどき・その	遂し	388				
100	101	107	107	108	とき・とらのとき	とくしや(得者)					
109	111	114	114	122	時	得者	4100				
123	132	142	145	147	とき	とくのじ(秃字)					
151	168	178	182		とききかす(説聞)	秃字	314	321			
		94	97		説きかしめをはる	とこしなへなり(常)					
					ときどき(時時)	とこしなへに	116				
					時々	ところ(所・処)					
					ときに(爾時)	ところ	60	158	183		
					爾時	2199	2207	2210	2214	2216	
					同室	4147	4183				
					ととのふ(調)						

調けり	四 80	徒							
とどむ(留)		輩	二 119	三 35	四 124	二 108			
留たまふ	三 120	ともから		二 133	四 179		な(名)		
とゝむるに	四 83	ともに(共)					名之字		
とゝむる本意	四 120	ともに		二 132	二 187		ないだい(内題)		
とびら(扉)		共に		四 108			内題	二 93	
扉	四 139	どもんるい(土文類) ↓けん					ないゑこけ(内壊虚仮)		
とふ(問)		じやうどはうべんくゑしん					内壊虚假	四 128	
問て	二 216	どもんるい					なか(中)		
とぶらふ(訪)		とらのとき(寅時)					喜の中	二 131	
訪て	一 15	寅時	一 30	一 78			ながえ(轅)		
とほし(遠)		とり(酉) ↓かのとのとり					轅	二 121	
とをく	二 236	とりへの(鳥部野)					ながす(流)		
とぼぞ(樞)		鳥部野	四 162	四 164	四 170		なかつ	二 228	
樞	四 60	とりわき(取分)(副詞)					なかのさいのこほり(那荷西郡)		
とも(助詞)		とりわき		四 134			那荷西郡	四 90	
とも	二 146	とる(取)					ながら(助詞)		
とも(助詞)	二 176	とりて		二 185			ながら(助詞)		
とも	一 9	とり(中止法)		三 53			なから	一 41	四 128
ども(接尾語) ↓かむなぎども							なし(無) ↓さうなし		
ともがら(徒・輩)							なかりき	四 92	
							なし		
							なし	二 121	二 156
							な	二 180	二
							無	136	四 169
							なかれ	四 147	四 157
							なす(為)	四 174	四 189
							成念	三 7	四 189
							なしつゝ	一 73	
							なす		
							なす事	三 11	
							為姓	三 38	
							なす	二 122	
							なす事	三 14	
							なとか(副詞)	二 122	
							なとか	四 149	
							なに(何)	二 174	
							なにがし(何某)	一 63	二 145
							なにかし	二 174	
							なにごと(何事)	一 63	二 145
							何事	四 90	
							なほ(尚)	二 131	二 151
							なを	一 64	四 172



なまみ(生身)	↓しやうじん	一49	一66	一82	一102	二104	二155	二157	二158	二161	二166	
なみだ(涙)		二106	二109	二110	二145	二170	二175	二177	二182	二183	二185	
涙		二187	二233	二239	三13	三55	難行道					二127
なむ(南無)		四86	四102	四122	四145		なんぞ(何)					二205
南无阿弥陀佛							何そ					四76
南無阿弥陀佛							なむぢ(汝)					四141
ならくのみ(而已)		二24	二60	二65	二77	二182	なむぼく(南北)					三30
而已(ならくのみ)		四185	四190	四207	四231	四54	南北					三3
ならひ(慣)		四55	四77	四96	四106	四117	に					四61
ならひ		四183	四207	四231	四54	四53	に(格助詞)					四62
ならび(并)							に					四64
并	二93	二148	二12	三15			に					四66
なり(助動詞)↓あながちに・							に					四67
ありのままに・いろいろ							に					四68
に・ことに・さまざまに・							に					四69
たちまちに・つねに・むる							に					四70
に							に					四71
ならす	二119						に					四72
にして	一4	二139	三34	三41			に					四73
也	一4	二12	二12	一38			に					四74
也	一4	二12	二12	一38			に					四75
なん(助詞)							に					四76
なん	二206	四68					に					四77
なむがくてんだい(南岳天台)							に					四78
南岳天台	一15						に					四79
なんぎやう(難行)							に					四80
なんぎやう	二143	二144	二145	二149	二154		に					四81
于	四159	四190	一11	二105	二148	四62	に					四82
于	四181	四182	四175	四176	四177	四180	に					四83
于	四173	四174	四175	四176	四177	四180	に					四84
于	四160	四163	四164	四165	四166	四172	に					四85
于	四148	四150	四154	四156	四158		に					四86
于	四135	四136	四137	四143	四144		に					四87
于	四127	四127	四130	四133	四133		に					四88
于	四118	四119	四121	四123	四125		に					四89
于	四109	四110	四112	四115	四118		に					四90
于	四96	四98	四102	四107	四109		に					四91
于	四84	四90	四93	四93	四94		に					四92
于	四61	四62	四69	四76	四81		に					四93
于	三53	四57	四58	四59	四60		に					四94
于	三30	三38	三44	三45	三47		に					四95
于	三24	三24	三26	三27	三29		に					四96
于	二221	二225	二227	二229	三1		に					四97
于	二205	二207	二209	二218	二219		に					四98
于	二186	二195	二199	二201	二201		に					四99
于	二175	二177	二182	二183	二185		に					五00
于	二155	二157	二158	二161	二166		に					五01

兮 三六三七

にも 二一八 二四七 四〇

70 四〇九 四一四 四二四 四二四

に(接続助詞)

に 一 二 三 一 二 七 一 四 八 一 五 四

一 68 一 72 二 113 二 130 二 132

二 170 二 191 二 223 二 232 三 22

三 35 三 41 三 43 三 45 三 47

四 61 四 63 四 68 四 75 四 81

四 83 四 95 四 131 四 138 四 151

にして(連語) ↓して・なり

にしのとうゑん(西洞院)

西洞院 四 85

にじふいつせい(二十一世)

二十一世 一 2

にじふくさい(二十九歳)

廿九歳 一 19

にじふにち(二十日)

廿日 二 231

にだいし(二大士)

二大士 一 71

にて(助詞)

にて 一 84

ににん(二人)

二人 二 212

にねん(二年)

二季 二 95

にふさいばう(入西房)

入西房 二 197 二 202

にふる(入路)

入路 四 101

にぼさつ(二菩薩)

二菩薩 一 67

にも(連語) ↓に・も

にやくがじやうぶつ(若我成仏)

若我成佛 二 97

にやくふしやうじや(若不生者)

若不生者 二 98

によしん(女身)

女身 一 36

によぼん(女犯)

女犯 一 36

によらい(如来)

如来 一 68 四 101

にんち(仁治)

仁治三年九月廿日 二 231

ぬ

ぬ(助動詞)

ぬ 二 196

ぬ 二 204 二 223 二 225 四 62

ぬきんづ(抽)

抽て 四 74

抽るともから

四 179

ね

ねがはくは(願)

ねかわくは

ねん(年) ↓はちねん

ねむごろなり(憩)

ねむぶつ(念仏)

憩 二 124

ねんねん(年年)

年々 四 180

ねんねんさいさい(年年歳歳)

年々歳々 四 82

ねむぶつ(念仏)

念仏 一 48 一 69 二 93 二 104 四 123 四 159

ねむぶつす(念仏)

念仏する者 四 145

ねむぶつばう(念仏房)

念仏房 二 166

の

の(助詞) ↓あまつこやね

のみこと・ありのままに・

うまのとき・おしこうぢの

みなみまでのこうぢひんが

し・おほぶのこほり・かき

のころも・かくのごとし・

かのととり・かのとひ

つじのとし・さうしよのへ  
 ん・さきの・さどのゐん・  
 つきのわどの・とくのじ・  
 とさのくに・とらのとき・  
 なかのさいのこほり・にし  
 のとうるん・ひのとう  
 し・ぶささきのこう・みづ  
 のえいぬ・わかさのかみ・  
 めちこのくに

— 5  
 — 6  
 — 9  
 — 10  
 — 11  
 — 13  
 — 15  
 — 16  
 — 17  
 — 19  
 — 20  
 — 21  
 — 22  
 — 23  
 — 24  
 — 25  
 — 27  
 — 28  
 — 31  
 — 32  
 — 32  
 — 33  
 — 34  
 — 39  
 — 41  
 — 43  
 — 44  
 — 44  
 — 48  
 — 49  
 — 49  
 — 52  
 — 53  
 — 54  
 — 58  
 — 59  
 — 64  
 — 64  
 — 66  
 — 67  
 — 68  
 — 70  
 — 71  
 — 71  
 — 72  
 — 76  
 — 83

— 86  
 — 86  
 — 86  
 — 112  
 — 113  
 二 115  
 二 116  
 二 117  
 二 118  
 二 119  
 二 120  
 二 122  
 二 130  
 二 131  
 二 131  
 二 132  
 二 133  
 二 134  
 二 136  
 二 137  
 二 139  
 二 139  
 二 142  
 二 143  
 二 144  
 二 145  
 二 147  
 二 149  
 二 152  
 二 154  
 二 155  
 二 157  
 二 158  
 二 159  
 二 161  
 二 162  
 二 163  
 二 166  
 二 167  
 二 169  
 二 171  
 二 172  
 二 177  
 二 178  
 二 180  
 二 184  
 二 185  
 二 185  
 二 187  
 二 187  
 二 188  
 二 189  
 二 191  
 二 197  
 二 202  
 二 206  
 二 208  
 二 208  
 二 211  
 二 213  
 二 217  
 二 219  
 二 220  
 二 226  
 二 227  
 二 228  
 二 231  
 二 233  
 二 235  
 二 236  
 二 237  
 二 238  
 二 238  
 二 238  
 二 238  
 二 238  
 二 238  
 三 3  
 三 4  
 三 5  
 三 18  
 三 21  
 三 30  
 三 31  
 三 32  
 三 33  
 三 34  
 三 35  
 三 36  
 三 37  
 三 43  
 三 43  
 三 48  
 三 50  
 四 60  
 四 60  
 四 64  
 四 67  
 四 82  
 四 82  
 四 83  
 四 73  
 四 73  
 四 82  
 四 82  
 四 83

之

のう(能)  
 能莊嚴  
 のがる(遁)  
 遁て  
 のす(載)

載たまふ  
 のせたまふ  
 のたまはく(云)  
 のたまはく  
 云  
 二 143  
 二 151  
 二 165  
 二 201  
 二 213  
 二 184  
 三 4  
 三 32  
 四 95  
 四 144  
 のたまふ(終止形)  
 のち(後)  
 後  
 のぶ(述)  
 のへ  
 のふ  
 のふる  
 述る  
 のみ(已) ↓ ならくのみ  
 しかのみならず  
 のりつなきやう(範綱脚)  
 範綱脚  
 のりみつきやう(範光脚)

四 86  
 四 91  
 四 94  
 四 97  
 四 97  
 四 101  
 四 102  
 四 103  
 四 106  
 四 106  
 四 109  
 四 110  
 四 112  
 四 115  
 四 115  
 四 116  
 四 117  
 四 119  
 四 119  
 四 121  
 四 122  
 四 126  
 四 128  
 四 129  
 四 130  
 四 134  
 四 135  
 四 138  
 四 139  
 四 139  
 四 146  
 四 149  
 四 149  
 四 152  
 四 153  
 四 154  
 四 155  
 四 159  
 四 161  
 四 161  
 四 162  
 四 163  
 四 164  
 四 164  
 四 167  
 四 167  
 四 170  
 四 171  
 四 172  
 四 174  
 四 175  
 四 181  
 一 36  
 二 93  
 二 95  
 二 100  
 二 101  
 二 103  
 二 104  
 二 104  
 二 106  
 二 106  
 二 107  
 二 108  
 二 109  
 二 110  
 二 110  
 二 111  
 二 113  
 二 15  
 二 15  
 四 185  
 四 188  
 四 189

一 49  
 四 150

一 11

二 119

四 147

二 156

四 156

一 26

二 156

四 147

二 119

一 11

範光卿 三二〇

配流 三二七

建長八年 一七八

はるかに 二二三八  
四一六一

は

はうべん(方便) ↓けんじや

はなはだ(甚)

遙 四五九

は(助詞) ↓かつは

はうみやう(芳名)

はなはた

ばんいん(晩陰) 四五八

は 一 1 58 83 87

芳名

二二九

はなぶさ(萼)

はんえんせうなごん(範宴少  
納言) 一四

二八八 二一三〇 二一四四 二一六八 二一七五

ばかり(許)

二二二 二二三〇

はべる(侍)

はんじや(万差) ↓まんじや

二二七 二一八五 二一八七 二一九二 二一九三

御くしはかり

二二二 二二三〇

しはむへらむか

はんじやう(繁昌)

二二二 二二三〇 二二三六 二二三六

はかりなし(量無)

二二二 二二三〇

申侍しところ

はんじやう(繁昌)

四九八 四一〇六 四一〇九 四一四四 四一六〇

はかりなき

二一七

つらなり侍へしと

はんじやう(繁昌)

者 すは 一 56 62

はこね(箱根)

四五九

しはむへる事

はんず(判)

ば(助詞)

箱根

四五九

あそひし侍に

判し 四一四

は 一 42 58 176 188

はこぶ(運)

四一八〇

よりゐはむへると

ひ

四九六 四一六一

運て

四一八〇

はや(早)

ひ(日) ↓どうじつ

はいしよ(配所)

はた(幡多)

四一八〇

はや

ひ(日) ↓どうじつ

配所 二 62 63 16

幡多

三二六

はらす(晴)

日 二一〇七

はいす(拜)

はたして(果)

三二六

はらし(中止法)

ひがし(東) ↓おしこうぢの

拜したてまつる

はたして

四一三八

はる(春)

みなみまでのこうぢひんが

はいたたいす(廃退)

はぢ(恥)

四一三八

春の比

し

廃退す

耻

四一八八

春のころ

ひがしやま(東山)

はいる(配流)

はちねん(八年)

四一八八

はるかなり(遙)

東山 四一六二 四一七〇

三二一

はちねん(八年)

四一八八

はるかなり(遙)

東山 四一六二 四一七〇

ひき(悲喜)	二110	ひとし(等)	二156 二158	訛謬	四189	びんはつ(鬢髪)	一13
悲喜		ひとしからん	二175	ひぶつ(彼仏)		鬢髪	
ひく(引)	一20	ひとしと	二172 二174	彼仏	二98	ふ	
ひかれて		ひとしかるへきと	二173	ひぼむ(被犯)			
ひごろ(日比・日来)	二199	ひとしくす(等)	二182	被犯	一36	ふ(経・歴)	
日比	三50	ひとしくして	二178	びやくのう(白納)		経	三15
日来		ひとたび(二度)		白納	一33	歴て	四162
ひさし(久)	三5	ひとたひ		びやくれんぐゑ(白蓮華)	一34	ふかくす(深)	
久(連用形)		ひとつつ(一)	二170 二190 三13 四86	白蓮華	一47	ふかくして	二211
ひざまづく(腕)	二219	ひとつと(一)	二192	ひらく(披)	一8	ふかし(深)	一18
ひざまつきて		ひとびと(人人)	二141 二167 二171 二192	披て	一47	ふかく	
ひそかに(竊)	三4	人々	二186 二192	ひらくへかりし	一8	ふかし	一52
竊		ひとへに(偏)	二186	ひろし(広)	一15	ふかき	四119
ひたちのくに(常陸国)	三26 三34 四89	ひとへに	一48 一51	ひろく		ふかきこと	四155
常陸国		偏	四185	ひろふ(拾)	四164	ふかしぎ(不可思議)	
ひつ(弼)	一5	ひのえたつ(丙辰)	一78	拾て	四186	不可思議	四152
弼		丙辰		拾(終止形)		ふがふす(符合)	
ひつとく(必得)	二100	ひのとのうし(丁丑)	三10	ひろむ(広)	二113	符合せりと	三33
必得往生		丁丑		ひろめ給しに	三35	ふきよ(不虛)	
ひと(人)	一8 一22 二107 二114	ひびう(訛謬)		ひろめたまふ	一68	不虛	二99
人				ひろむるに		ふくむ(含)	

ふくめり	二 163	付属し	四 110	麓	四 171	へいたらう(平太郎)	四 133
ふささきのこうそん(房前公孫)		付属す	四 112	ふゆ(冬)	四 170	平太郎	四 90 四 92 四 133
房前公孫	一 4	ふたごころ(貳心)	四 92	冬	四 170	へうじ(表示)	
ふしぎ(不思議)		貳		ふよく(馮翊) ↓ふふうふよ		表示	一 49
不思議なり	三 54	ぶつ(仏) ↓ほとけ	四 155	く		へうす(標)	
ふじはらし(藤原氏)	一 1	ぶつおん(仏恩)	四 155	馮翊	四 160	標すへからす	
藤原氏		仏恩		ふれい(不例)		べうだう(廟堂)	四 129
ふしやう(浮生)	二 137	ぶつかく(仏閻)	四 173	不例	四 154	べうだう(廟堂)	四 180
浮生		仏閻		ぶるに(无為) ↓むるに		べうゑい(苗裔)	
ふじやう(不浄)	四 135	ぶつけう(仏教)	一 50 三 53	ぶんえい(文永)	四 170	苗裔 <small>(裔)</small>	一 2
不浄		仏教		文永九年		べし(助動詞)	
ふしゆ(不取)	二 98	ぶつほふ(仏法)	一 76 三 29 三 37	ぶんぼ(墳墓)	四 171	へからす	二 153 二 170 二 171
不取正覚		仏法		墳墓		へからさるそや	四 116
ふじるとひこ(藤井元彦)	三 16	ふで(筆)	二 215	へ		へかりし	一 8
藤井元彦		ふて		へ(助詞)		へし	一 40 一 74 二 142 二 143
ふじゐよしのぶ(藤井善信)	三 17	ふふうふよく(扶風馮翊)	四 84	へ	一 13 二 193 四 95	145 二 154 二 162 二 202 二 215 二 216	
藤井善信		扶風馮翊		へいえん(炳焉)		223 二 229 二 235 二 239 二 239 四	74 四 93 四 130
ふす(臥)	四 158	ふむ(踏)	四 125	炳焉	二 233 四 77	可然	二 141
臥給て		ふみ(中止法)		へいか(陛下)	三 22	可着	二 149
ふぞくす(付属)		ふもと(麓)		陛下			

へき	二145二173二175二	褒美す	三23	法	三10	堀渡て	四172
194三3四71四72		ほか(外) ↓このほか		ほふいん(法印)		ぼむぐ(凡愚)	
へんしう(辺州)		ほか	一10	法印	二148	凡愚	一56
辺州	三15	ぼさつ(菩薩) ↓にぼさつ		ほふう(法雨)		ほんくわい(本懐)	
へんひ(辺鄙)		ほじ(晡時)		法雨	二238	本懐	三30
辺鄙	一63	晡時	四191	ほふけう(法橋)		ほんぐわん(本願)	
へんふす(遍布)		ほつきす(発起)		法橋	二203	本願	一68二91二117四136
遍布して	四177	発起するところ	四126	ほふこ(蓬戸)		ほんぐわんごばう(本願御坊)	
ほ		ほど(程)		蓬戸	三28	本願御坊	二218
		ほど	二137	ほふしやうじどの(法性寺殿)		ほむけう(禀教)	
ほい(本意)		程	四69四147	法性寺殿	一12	禀教	四178
本意	四120	ほどけ(仏)		ほふみやう(法名)		ほんし(本師)	
ほうしや(報謝)		仏	二188	法名	二103	本師聖人	二102
報謝	四179	ほどこす(施)		ほふりき(法力)		ほんじき(飯食)	
ほうでん(宝典)		ほどこさむ	三24	法力	二153	飯食	四79
宝典	二106	ほとこしたまはずは	一56	ほふりきばう(法力房)		ぼむじやう(凡情)	
ほうとく(報徳)		ほとり(邊)		法力房	二153	凡情	四135
報徳	四185	邊	四161	ほふれんしやうにん(法蓮上人)		ほんぜいちうぐわん(本誓重願)	
ほうとくくしやう(報土得生)		南邊	四163	法蓮上人	二149	本誓重願	二99
報土得生	二134	北邊	四164四172	ほりわたす(堀渡)		ほんち(本地)	
ほうびす(褒美)		ほふ(法)					

本地	一五八	二五九	四一七	四	申たりしに	二一七〇	まします(坐)	
122	四一三〇	申けり	三	四	ましますさん	四七六	末法	四九七
ぼむぶ(凡夫)	申也と	二一八三	ましくけり	一	二九	四五八	まつほふ(末法)	
凡夫	申は	二一八五	ましくき	一	三一		末法時中	四九九
ほんぶつ(本仏)	申に	四一五一	ましますと	一	八四		まつりう(末流)	
本仏	まかす(任)	二二二九	まします	四	一五四		末流	四一七
ぼむわく(凡惑)	まかすへしとて	四一三〇	ますます(増増)	四	一七五		まつりこと(政)	二一一五
凡惑	まかすへし	二二二九	ますく	四	一七五		政	
ま	まく(巻)	二一九五	また(又)(接続詞)	一	六〇	二二二	まのあたり(親)	二一二四
まく	まき(中止法)	二一九五	又	一	六〇	二二二	親	
まく(儲)	まご(孫)	一	また(又)(副詞)	一	六六		まぼろし(幻)	四八二
儲へしと	孫	一	また	一	六六		幻	
まうしあづかる(申預)	まことに(誠)	二一〇五	又	一	六二	二一〇〇	ままたに(儘)	四一四三
申預奉	誠	二一〇五	四一四	四一八	二一〇〇	二一八六	↓ありのままに	
まうす(申) ↓たづねまうす	まことに	二一七六	またく(全)	二	一七九		まみゆ(見)	四一四三
まうさるゝ	まさし(正)	二一七六	またく	二	一七九		まみえたまふ	
申さるへき	まさしく	二一七四	またて(真楯)	一	四		まもる(守)	二一二五
まうさは	まじはる(交)	二一七六	真楯	一	四		まもるに	四一三七
申て	まじはりつる	二一〇五	まつ(待) ↓あひまつ				まよひやすし(迷易)	一
申たまはく	まじふ(交)	二一〇七	まつ(先)	二	一一六		まよひやすきによて	一
申云	ましへす	二一五〇	先	二	一一六		まよふ(迷)	一
		二一五三		四	一五五			



迷行号	三七	みぎ(右)						
まれなり(布)		右						
まれなり	二二五	みぎり(砌)						
まるる(参)		砌						
まいらむ	二一九	みぐし(御髮)						
まいらせたまはし	二一九	御くし						
参たまひき	二二一	みだ(弥陀)						
まいりぬ	二二四	弥陀						
まいりて	二二五	みだう(御堂)						
まいりたる	四九五	御堂						
まいるへしと	二一四	みだによらい(弥陀如来)						
まんしや(万差)		弥陀如来						
万差なり	四九五	みだりがはし(猥)						
まんぞくす(満足)		猥						
満足す	三三	みち(道・路)						
		道						
み		路						
み(身)		みつ(満)						
身	四一八	みづから(自)						
みう(未有)		みづから						
未有一人	四一〇	みつから						
		みづのえいぬ(壬戌)						
		壬戌						
		みな(皆)						
		みな						
		皆						
		みなみ(南)						
		南辺						
		みなみまでのこうち(南方里)						
		小路) ↓おしこうちのみなみ						
		までのこうちひんがし						
		みのけ(身毛)						
		身毛						
		みやう(冥)						
		冥						
		みやうし(冥眈)						
		冥眈						
		みやうじ(名字)						
		名字						
		みやうにち(明日)						
		明日						
		みやうほふぼう(明法房)						
		明法房						
		みやうもん(明文)						
		明文						
		みゆ(見)						
		見ゆ						
		みる(見)						
		みにけり						
		見たてまつる						
		見者						
		見る程						
		見れば						
		みろく(弥勒)						
		弥勒						
		む(助動詞)						
		ん(終止形)						
		む(終止形)						
		んと						
		んと						
		むと						

むか	一 59	二 76	二 138	无上覚					
むや		一 62		むすぶ(結)					
む(連体法)		二 192	二 193	結て					
三 24	四 94	四 123	四 126	結(終止形)					
んに		二 223		むちう(夢中)					
め		二 177		夢中					
むおむ(無音)				むね(旨)					
無音		二 159		むね					
むかし(昔)				旨					
むかし		一 50		むろ(无漏)					
昔		二 86	四 175	无漏					
むかふ(向)				むるに(无為)					
むかひたてまつりて		二 205		无為に					
むかひたてまつる		二 208	三 47						
むこく(夢告)				め					
夢告		二 100	四 139	めい(銘)					
むさう(夢想)				銘					
夢想		一 31	一 47	めいあむ(迷闇)					
むじやう(無上)		二 79	二 231	迷闇					
無上		二 106		めいしむ(迷心)					
むじやうかく(无上覚)				迷心					

照願寺蔵 本願寺親鸞聖人傳繪 総索引稿  
 まれなりーもはら  
 三七七

めぐらす(巡) 一 82  
 めくらし 二 121  
 めくらしたまふ 四 132  
 めつご(滅後) 三 11  
 滅後 四 167  
 めんざう(面像) 一 40 二 207  
 面像 二 208  
 めんじゆ(面授) 二 113 二 202  
 面授 四 150  
 めんめん(面面) 二 236  
 面々 二 139 二 195 四 180  
 も 四 138  
 も(助詞) 一 52 一 52 二 138 二 161  
 もの(者) 二 177 二 180 二 181 二 189 二 189  
 者 二 105 四 145  
 ものうし(嬾) 二 229 四 61 四 62 四 68 四 70  
 嬾(終止形) 四 70 四 83 四 109 四 111 四 124  
 もはら(專) 四 124  
 專 二 116 二 118 四 70 四  
 もはら 四 156  
 をも 一 7 一 8 二 137 二  
 140 四 136  
 もし(若) 一 55 一 62  
 もし 一 61  
 若 一 61  
 もつとも(尤・最) 二 141 四 187  
 尤 四 77  
 最 二 94 二 96 二 101 二 108  
 以 三 8 三 14  
 もて 三 20 四 108  
 もてあそぶ(弄) 二 118  
 もてあそふ

もよほす(催)

もよほしによりて 一 10 門徒等 四 88

やすし(易) ↓ さとりやすし・

ゆめ(夢) ↓ むこく

もりなり(守成)

もりなり(守成) 一 10 門侶 二 147

まよひやすし

夢 一 46 二 224 二 229 三 33

守成

守成 三 19 もんるい(文類) 二 147

やすむず(安)

四 70 四 82

もる(漏)

もる(漏) 三 19 文類 三 4

安す

ゆめ 二 212 二 219 二 226 四 148

もる(終止形)

もる(終止形) 二 153 文類 三 4

やま(山)

ゆめゆめ(努力)

もん(文)

もん(文) 二 153 や 三 4

山

努力々々

もんえふ(門葉)

もんえふ(門葉) 一 37 二 44 四 107 四 115 や(助詞) 一 62 二 175 二 195 二

やまぶし(山臥)

ゆらい(生来)

もんこ(門戸)

もんこ(門戸) 二 162 四 176 をや 四 108

山臥

ゆ来(故・以)

もんぜん(門前)

もんぜん(門前) 二 122 やう(様) 二 220 四 66

やや(稍)

ゆへに 一 67 二 186

もんだふ(問答)

もんだふ(問答) 二 122 養父 一 12

ややもすれば(動)

ゆへは 二 168

もんてい(門弟)

もんてい(門弟) 四 166 漸 四 60

や

以

もん(門徒)

もん(門徒) 二 125 三 36 族 二 125 三 36

ゆく(行)

よ(世)

もんたら(門徒等)

もんたら(門徒等) 一 7 射山 三 45

行て

よ(夜)

もん(門徒)

もん(門徒) 二 125 三 36 族 二 125 三 36

ゆく(行)

夜

もん(門徒)

もん(門徒) 二 125 三 36 族 二 125 三 36

ゆく(行)

夜

もん(門徒)

もん(門徒) 二 125 三 36 族 二 125 三 36

ゆく(行)

夜

もん(門徒)

もん(門徒) 二 125 三 36 族 二 125 三 36

ゆく(行)

夜

もん(門徒)

もん(門徒) 二 125 三 36 族 二 125 三 36

ゆく(行)

夜

もん(門徒)

もん(門徒) 二 125 三 36 族 二 125 三 36

ゆく(行)

夜 61 四 138

よ(予)									
予	二127	三13	よも(副詞)	四64	よりのむへる	四69	らくと(洛都)		
ようばう(容貌)			よも	二193	喜	二131	らくやう(洛陽)		
容白 <small>(貌)</small>	二209		よもすがら(終夜)		悦	二131	洛陽	四83	四162
よかは(横川)			終夜	四67	ら		らる(助動詞)(尊敬・可能)		
横川	一17		より(自)		ら(等)↓もんとら		られたまはずは	二61	
よくじつ(翌日)			自	一14	四154		られ	二142	
翌日	二143		より	一50	一52	二	られて	二200	四140
よくよく(能能)			129	二130	二179	二180	三26	四	
能々	二194		153	四171					
よごん(余言)			よりう(余流)		来現	二233	らるへき事	二194	
余言	四156		よりて(因・由・仍・依)	一17	らいしす(来至)		らるへきよし	三3	
よし(由)			よりて	一10	一54		らるゝなりと	二152	
よし(好)	三3	四94	よて	一23	一63	一70	らる(羅縷)	四182	
好	二132	四88	1	四115	四119	四133	四144		
よしみつ(吉水)			因	一69	三11		らいにふす(来入)		
吉水	一21	四172	由	一69			来入す	二212	
よそほふ(粧)			仍	二110	二154	三44	らいりむ(来臨)		
粧ひ	四79		依	二100	二103	四113	来臨	二141	
よはひ(齢)			よりゐる(寄居)		らうにやく(老若)		らうにやく(老若)	四166	

り	一 72 二 164 三 33 四 76	楞嚴横川	一 17	れいみん(黎民)			
る	一 45	りむじゆ(臨終)		黎民	二 119	わ	
る(連体法)	三 51	臨終	一 37	れいむ(靈夢)		わうこむ(黄金)	
り(理)				靈夢	二 206	黄金	二 116
理	一 16	る		れき(曆)		わうじ(往事)	
りしやう(利生)		る(助動詞)		曆	一 19 二 90	往事	四 81
利生	一 10	れんに	二 223	れんぼていきふす(恋慕涕泣)		わうじやう(往生)	
りち(理致)		れしに	一 54	恋慕涕泣せす	四 168	往生	二 93 二 100 二 110 二 177 四 106
理致	一 26	る	二 72	れんる(蓮位) ↓しやくれん		わうふくす(往復)	
りふす(立)		るい(類) ↓けんじやうどは		る		往復したまひける	二 224
立すへからざるそや	四 116	うへんくゑしんどもんるい		ろ		往反したまひける	三 40
りやういん(良因)		るけい(流刑)		ろく(六)	二 89 三 4	わが(我・吾)	
良因	二 130	流刑	一 61	ろくかくだう(六角堂)		我	一 38 二 165
りやうしゆ(領主)		るさい(流罪)		六角堂	一 31	吾	一 53
領主	四 124	流罪	三 18	ろくだい(六代)		わか	二 172 二 190 二 192
りやうほう(両方)		るつ(流通)		六代	一 4	わかさのかみ(若狭守)	
両方	二 144	流通	四 109	ろんしゆ(論主)		若狭守	一 12
りやくす(略)		れ		論主	四 113	わかつ(分)	
略之	三 18			わかたる			二 145
略する	四 183	れいち(靈地)	四 125				
りようこむ(楞嚴)		靈地					

わきまふ(辨)	無辨	三7	汚穢不淨	四141	惠燈	二236	154
わく(分)	わく(分)	二152	ゐ	二	二	二	152
わくわう(和光)	わくわう(和光)	四119	ゐぎ(威儀)	四129	二	二	159
わしる(趁)	わしる(趁)	一7	遺訓	四175	を	を	152
わたくしなし(私)	わたくしなし(私)	二179 二105	ゐほん(為本)	二94	を(助詞)	を	152
わたす(渡)	わたす(渡)	一54	ゐめう(為妙)	一81	を	を	152
わたされしに	わたされしに	二105	ゐいぐわ(栄花)	一59	を	を	152
わたる(渉)	わたる(渉)	四85	ゐいにん(永仁)	二87	を	を	152
渉年	渉年	二107	永仁	二115	を	を	152
渉日	渉日	二85	ゐちごのくに(越後国)	二120	を	を	152
わたり	わたり	二126	ゑとう(惠燈)	三17 三26	を	を	152
わづかに(僅)	わづかに(僅)	二126	越後国	三17 三26	を	を	152
わつかに	わつかに	二126	三	三17 三26	を	を	152
われ(我) ↓が	われ(我) ↓が	一62 一62 一67 一64					
われ	われ	71 141					

照願寺蔵 本願寺親鸞聖人傳繪 総索引稿 リーを

鎌倉時代語研究

をも	一七 一八 二一三 二	をふるところ	二
140 四136		をんる(遠流)	二
をもて	三 二〇	遠流	三
をや	四 一〇八		13
分	二 九一		
をかざきちうなごん(岡崎中納言)			
岡崎中納言	三 二〇		
をしへ(訓・誨)			
誨	二 一二五 二 一三三		
訓	四 九一 四 一四四		
をどこ(男)			
男	四 一三九		
をはる(畢)			
をはらざるに	四 七五		
畢	一 四六 二 一〇一 四 一九一		
をはりぬ	二 二二四 四 一四八 四		
159 四165			
をはると	一 四六		
をふ(終)			
終	四 一九一		